

令和6年度医療系統合教育について

- 令和6年度に開講する医療系統合教育科目は、次のとおりです。

- 「地域包括ケアシステム」
- 「漢方医薬学」
- 「インフォームド・コンセント」
- 「薬害」
- 「チーム医療演習」
- 「臨床倫理」

- 受講にあたっては、各科目の日程・場所・対象学部・学科・学年・授業内容等を確認してください。
- 講義室の収容人員の関係上、履修制限を行う科目があります。
- 収容人員に余裕があれば、対象学部・学科・学年以外の学生が受講することは可能です。
- 受講希望者は所属学部・学科の学生系の指示に従って、履修登録を行ってください。

RCEHS

九州大学医療系統合教育研究センター（学内共同教育研究施設）

Research Center for Education in Health Care System

令和6年度医療系統合教育科目授業日程

学期	月	日	曜日	1限	2限	3限	4限	5限	対象学部・学科・学年	会場
春	4月	12日	金	地域包括ケアシステム					「地域包括ケアシステム」 医学科4年 歯学部4年	「地域包括ケアシステム」 臨床大講堂
		19日	金							
		26日	金							
	5月	7日	火			漢方医薬学			「漢方医薬学」 医学科・生命科学科4年 保健学科(看護)3, 4年 保健学科(放射)4年 歯学部4年 薬学部臨床薬学科4年 医系学部を除く学部3, 4年	「漢方医薬学」 百年講堂大ホール
		10日	金	地域包括ケアシステム						
		14日	火			漢方医薬学				
		21日	火							
		28日	火							
		4日	火			漢方医薬学				
	夏	6月	11日	火	インフォームド・コンセント				「インフォームド・コンセント」 医学科・生命科学科4年 保健学科(看護)3, 4年 保健学科(放射)4年 歯学部4年 薬学部臨床薬学科4年 医系学部を除く学部3, 4年	「インフォームド・コンセント」 百年講堂 大ホール 中ホール123
18日			火							
25日			火							
7月		2日	火							
		9日	火							

学期	月	日	曜日	1限	2限	3限	4限	5限	対象学部・学科・学年	会場		
秋	10月	1日	火						「薬害」 医学科・生命科学科4年 保健学科(看護)3, 4年 保健学科(放射)4年 保健学科(検査)3, 4年 歯学部4年 薬学部3年 医系学部を除く学部3, 4年	「薬害」 百年講堂大ホール		
		8日	火								薬害	
		15日	火									
		22日	火									
		29日	火									
	11月	5日	火					薬害			「チーム医療演習」 医学科4年 薬学部臨床薬学科4年 医系学部を除く学部3, 4年	「チーム医療演習」 臨床大講堂, スキル
		12日	火					チーム医療演習				
		19日	火									
冬	12月	3日	火						「臨床倫理」 医学科4年 保健学科(看護)3, 4年 保健学科(放射)4年 保健学科(検査)3, 4年 歯学部4年 薬学部臨床薬学科4年 医系学部を除く学部3, 4年	「臨床倫理」 百年講堂 大ホール 中ホール1・2・3 臨床大講堂		
		10日	火			臨床倫理						
		17日	火									
		24日	火									

令和6年度 医療系統合教育科目の配当年次等

科目名	高年次基幹教育科目	医学部					歯学部	薬学部		医系学部を除く学部
		医学科	生命科学科	保健学科				臨床薬学科	創薬科学科	
				看護	放射	検査				
地域包括ケアシステム		4年	—	—	—	—	4年	4年	4年	—
		選択必修	—	—	—	—	必修	—	—	—
漢方医薬学	○	4年	4年	3年以上	4年	—	4年	4年	4年	3年以上
		(注1)強く推奨	選択	選択	選択	—	(注2)強く推奨	必修	—	選択
インフォームド・コンセント	○	4年	4年	3年以上	4年	—	4年	4年	4年	3年以上
		選択必修	選択	選択	選択(推奨)	—	(注2)強く推奨	必修	—	選択
薬害	○	4年	4年	3年以上	4年	3年以上	4年	3年	3年	3年以上
		(注1)強く推奨	選択	選択(推奨)	選択	選択(推奨)	(注2)強く推奨	必修	必修	選択
チーム医療演習	○	4年	—	—	—	—	—	4年	—	3年以上
		選択必修	—	—	—	—	—	必修	—	選択
臨床倫理	○	4年	—	3年以上	4年	3年以上	4年	4年	4年	3年以上
		選択必修	—	選択	選択	選択	(注2)強く推奨	必修	—	選択

(注1)医師を目指す者にとって重要な内容なので、履修すること。

(注2)歯科医師を目指す者にとって重要な内容なので、履修すること。

令和6年度 医療系統合教育科目の担当教員・協力教員

科目名	担当教員 (◎印は代表)	協力教員
地域包括ケアシステム	◎(医)鴨打正浩、松尾龍、入江英美	
漢方医薬学	◎(保)宮田潤子 (医)中原真希子、(薬)坂元政一	(歯)寶田 貴
インフォームド・コンセント	◎(歯)築山能大 (医)岡崎研太郎、山口享子、(歯)寶田 貴、 (薬)小林大介、(保)馬場眞吾、(保)丸山マサ美	
薬害	◎(薬)川尻雄大 (医)伊藤隆司、(歯)寶田 貴、(保)勝田 仁	
チーム医療演習	◎(薬)小林大介 (医)藤本 翔、岡崎研太郎	
臨床倫理	◎(医)岡崎研太郎 (歯)築山能大、(薬)小林大介、(保)橋口暢子	(歯)寶田 貴

令和6年度 医療系統合教育科目「地域包括ケアシステム」シラバス

対象科目区分・対象学生・学年 授業科目名・開講期間・単位数	専攻教育科目・医学部医学科・4年 総合医学Ⅲ・通年・全3単位の一部・選択必修
	専攻教育科目・歯学部・4年 歯学総論4・後期・全2単位の一部・必修
担当教員	鴨打正浩・松尾龍・入江芙美（医療経営・管理学講座）
授業の概要 地域包括ケアシステムとは、「要介護者が介護施設に入所して集団的ケアを受けるのではなく、本人の住まいに外部から医療や介護サービスを定期的に提供する仕組み」のことである。すなわち、「ニーズに応じて住宅が提供されることを基本とした上で生活上の安全・安心・健康を確保するために、医療や介護のみならず、福祉サービスを含めた様々な生活支援サービスが日常生活の場で適切に提供されるような地域での体制」を指している。それには、「住まいと住まい方」「生活支援」「医療・看護」「介護・リハビリテーション」「保健・予防」が必要とされている。これら実現するために必要な知識について学び、我が国における地域包括ケアの理念と目指す姿を理解する。	
授業の進め方 令和6年4月12日1限（入江）「地域包括ケアシステムの概要（1）」 令和6年4月12日2限（入江）「地域包括ケアシステムの概要（2）」 令和6年4月19日1限（鴨打）「老年症候群」 令和6年4月19日2限（鴨打）「高齢者の疾患と診療（1）」 令和6年4月26日1限（鴨打）「高齢者の疾患と診療（2）」 令和6年4月26日2限（鴨打）「地域における高齢者医療と介護」 令和6年5月10日1限（松尾）「在宅医療」 令和6年5月10日2限（松尾）「アドバンス・ケア・プランニング」 ※授業は対面授業（臨床大講堂）で行う。 ※講義資料はMOODLE上にアップするので、ダウンロードを行い各自で確認すること。	
試験・成績評価 課題レポート レポートは以下のテーマの <u>ひとつ</u> を選んで5月14日12時までにMOODLEに送ること（1600字以内） 1、老年病の特徴と地域包括ケアシステムの意義（鴨打担当） 2、アドバンス・ケア・プランニングの実践と課題（松尾担当）	
その他 アンケートによる授業評価を行う。	

令和6年度 医療系統合教育科目「漢方医薬学」シラバス

対象科目区分・対象学生・学年 開講期間・単位数	高年次基幹教育科目・医学部医学科・4年 前期・1単位・強く推奨（医師を目指す者にとって重要な内容なので、履修すること。）					
	高年次基幹教育科目・医学部生命科学科・4年 前期・1単位・選択					
	高年次基幹教育科目・歯学部・4年 前期・1単位・強く推奨（歯科医師を目指す者にとって重要な内容なので、履修すること。）					
	高年次基幹教育科目・薬学部（臨床薬学）・4年 前期・1単位・臨床薬学科 必修					
	高年次基幹教育科目・医学部保健学科・（看護）3年以上、 （放射）4年・前期・1単位・選択					
担当教員	宮田 潤子（保健、代表）、坂元 政一（薬）、中原 真希子（医）、寶田 貴（歯）、 江頭 伸昭（学外）、貝沼 茂三郎（学外）、島添 隆雄（学外）					
授業の概要						
令和4年度医療系統合教育「漢方医薬学」講義日程						
月	日	曜	時間	講義内容	担当者	講義室
5	7	火	13:00-14:30	漢方医薬学総論	宮田 潤子	百年講堂
			14:50-16:20	薬学から見た漢方の問題点及び有用性 黄帝内経素問～漢方の原点～	坂元 政一 島添 隆雄	
5	14	火	13:00-14:30	六病位とその代表的な方剤について	宮田 潤子	
			14:50-16:20	血と水の異常について	中原 真希子	
5	21	火	13:00-14:30	気の異常について	宮田 潤子	
			14:50-16:20	漢方製剤の種類と適正使用	江頭 伸昭	
6	4	火	13:00-14:30	漢方医学的診断・診療の実際について	貝沼 茂三郎	
			14:50-16:20	現代医療の中で漢方の果たす役割	貝沼 茂三郎	
授業の進め方 原則として対面講義で行います。Web 投票機能を用いて双方向授業を行います。						
試験・成績評価 各授業後の小テスト（出席日数が全体の2/3に満たないものは単位認定の評価対象とならない）						
その他 参考テキスト：基本がわかる漢方医学講義（編：日本漢方医学教育協議会、羊土社出版）						

令和6年度 医療系統合教育科目「インフォームド・コンセント」シラバス

対象科目区分・対象学生・学年 開講期間・単位数	高年次基幹教育科目・医学部医学科・4年 前期・1単位・選択必修
	高年次基幹教育科目・医学部生命科学科・4年 前期・1単位・選択
	高年次基幹教育科目・歯学部・4年 前期・1単位・強く推奨（歯科医師を目指す者にとって重要な内容なので、履修すること。）
	高年次基幹教育科目・薬学部（臨床薬学）・4年 前期・1単位・臨床薬学科 必修
	高年次基幹教育科目・医学部保健学科・（看護）3年以上、 （放射）4年・前期・1単位・看護選択、放射選択（推奨）
担当教員	築山 能大（歯、代表）、寶田 貫（歯）、岡崎 研太郎（医）、山口 享子（医） 小林 大介（薬）、馬場 眞吾（保）、丸山 マサ美（保）
授業の概要 <p>日常医療におけるインフォームド・コンセント（以下 IC）について、患者側、医療者側の視点や法的側面に関する講義、IC の場面のロールプレイ、個人または学部学科の枠を超えたグループによる考察や討論などを通して、IC を得ることの大切さ、難しさを実感し、今後の医療活動に役立てる。</p>	
授業の進め方 <ul style="list-style-type: none"> ・夏学期の火曜日3、4時限に開講。（6月11日、18日、25日、7月2日、9日） ・以下のテーマの講義を受講する。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ IC をめぐる患者側の視点 ➤ 日常医療における IC をめぐる医療者側の視点 ➤ IC の法的側面 ➤ 多職種連携による IC の重要性 ・複数の学部学科の学生からなる混成チームで以下の学習活動を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ グループ討論 ➤ 学生相互のロールプレイ <p>・会場：百年講堂</p>	
試験・成績評価 <p>課題レポート……100%</p> <p>※レポートの内容次第で、ポートフォリオ（学習やレポート作成に使用したノート、資料などをファイルしたもの）の提出を求め、学習の取り組み状況をチェックすることがある。</p>	
その他 <p>アンケートによる授業評価を行う。</p>	

令和6年度 医療系統合教育科目「薬害」シラバス

対象科目区分・対象学生・学年 開講期間・単位数	高年次基幹教育科目・医学部医学科・4年 後期・1単位・強く推奨（医師を目指す者にとって重要な内容 なので、履修すること。）
	高年次基幹教育科目・医学部生命科学科・4年 後期・1単位・選択
	高年次基幹教育科目・歯学部・4年 後期・1単位・強く推奨（歯科医師を目指す者にとって重要な 内容なので、履修すること。）
	高年次基幹教育科目・薬学部（臨床薬学・創薬科学）・3年 後期・薬学基礎実習Ⅲ全4単位の一部 ・必修
	高年次基幹教育科目・医学部保健学科・（看護）3年以上、 （放射）4年、（検査）3年以上・後期・1単位・選択（推奨）
授業方法及び開講学期	令和6年度秋学期に集中講義 10月8日（火）、10月22日（火）、10月29日（火） 3、4、5時限（百年講堂大ホール）
担当教員名	川尻雄大（薬、代表）、伊藤隆司（医）、實田貴（歯）、 勝田仁（保）
履修条件	特になし
授業の概要	講師によるオムニバス講義と討論
全体の教育目標	これまでに発生した薬害問題を知り、薬害の原因と薬害根絶の ための対策について考え、医療や医薬学研究、医療行政などに 将来携わる者としての意識や態度を育む。
個別の学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・薬害被害者やその家族の体験や思いを直接聞くことにより、 薬害の現実を認識する。 ・薬害発生の要因を臨床的・行政的・社会的側面から考え、説 明できる。 ・薬害を防止するためには医療の専門家として何をすればよい か、考えることができる。
授業計画	第1日：オリエンテーション、薬害事例（講師2名）、討論 第2日：薬害事例（講師2名）、討論 第3日：講義（講師2名）、討論、まとめ
キーワード	薬害、サリドマイド、エイズ、C型肝炎、ヤコブ病、PMDA
授業の進め方	百年講堂大ホールにて、講師による講演形式で授業を行う。別 途、授業に関するプリントを配布する。講演終了後、グループ 討論および質疑応答を行う。
学習相談	特になし
試験・成績評価の方法等	レポート * 認定は各部局にて行う

令和6年度 医療系統合教育科目「チーム医療演習」シラバス

対象科目区分・対象学生・学年 開講期間・単位数	高年次基幹教育科目・医学部医学科・4年 後期・1単位・選択必修
	高年次基幹教育科目・薬学部（臨床薬学科）・4年 後期・1単位・必修
担当教員	小林大介（薬、代表）、藤本 翔（医）、岡崎研太郎（医）
授業の概要 将来、医師、薬剤師、看護師との十分な連携のもとに、薬物治療における副作用の早期発見・早期治療ができるようになるために、臨床実習(医学部医学科)あるいは実務実習(薬学部臨床薬学科)の準備として、抗がん薬の副作用モニタリングを題材とし、薬物治療における医師と薬剤師の役割と連携について討議し、理解する。	
授業の進め方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 後期の火曜日午後の3～5時限に、全4回（12コマ）開講する。 ・ 11月 5日（火）：臨床大講堂およびクリニカルスキル・トレーニングセンター <ul style="list-style-type: none"> ➢ オリエンテーション ➢ グループワーク・全体討論「チーム医療とは」 ➢ 九州大学病院の医師・薬剤師・看護師による講義 ・ 11月12日（火）：クリニカルスキル・トレーニングセンター <ul style="list-style-type: none"> ➢ グループワーク「がん化学療法ワークシートを使い、いつ・誰が・どこで連携すべきか」 ・ 11月19日（火）：臨床大講堂およびクリニカルスキル・トレーニングセンター <ul style="list-style-type: none"> ➢ 模擬抗がん薬の調製 ➢ バイタルサインの測定 ・ 11月26日（火）：クリニカルスキル・トレーニングセンターおよび臨床大講堂 <ul style="list-style-type: none"> ➢ グループワーク・全体討論「副作用の早期発見・早期治療のために各医療職がどう連携すべきか」 	
試験・成績評価 グループワークの発表内容……70%、課題レポート……30% ※レポートの内容により学習成果物（学習やレポート作成に使用したノート、資料などをファイルしたもの）の提出を求められることがある。	
その他 アンケートによる授業評価を行う。	

令和6年度 医療系統合教育科目「臨床倫理」シラバス

対象科目区分・対象学生・学年 開講期間・単位数	高年次基幹教育科目・医学部医学科・4年 後期・1単位・選択必修
	高年次基幹教育科目・歯学部・4年 後期・1単位・強く推奨（歯科医師を目指す者にとって重要な内容なので、履修すること）
	高年次基幹教育科目・薬学部（臨床薬学）・4年 後期・1単位・臨床薬学科 必修
	高年次基幹教育科目・医学部保健学科・（看護）3年以上、 （放射）4年、（検査）3年以上 後期・1単位・選択
担当教員	岡崎研太郎（医、代表）、築山能大（歯）、小林大介（薬）、橋口暢子（保）
授業の概要 医療現場で実習を行う際に、倫理的課題を孕む事例に気づき、自分なりに検討する視点を持つことができるようになるために、非常勤講師によるロールプレイ主体の授業を含め、医療現場における倫理的課題について、事例を題材にした学部混成の小グループ学習を行い、医療者としての対応の難しさを実感するとともに、チーム医療の基盤を形成する。	
授業の進め方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 後期の火曜日午後の3～5時限に、全3回（9コマ）開講する。 12月 3日（火）：百年講堂 12月10日（火）：百年講堂 or 臨床大講堂 12月17日（火）：百年講堂 「4分割表を用いた臨床における倫理的課題の検討」（2回、6コマ） <ul style="list-style-type: none"> ➢ 学部混成の小グループに分かれ、ビデオまたは印刷資料で提示される事例を、4分割表を用いて検討し、グループ発表、全体討論を行う。 ➢ 1回目と2回目の間で Web 学習システムを用いた課題の提出、講師とのやり取りを行う。 「倫理的課題を含む医療面接」（1回、3コマ） <ul style="list-style-type: none"> ➢ 講師：岐阜大学医学教育開発センター教授 藤崎和彦 ➢ 学部混成の小グループに分かれ、代表者が自分の学部に沿った役割で、倫理的課題を含む医療面接のロールプレイを行い、全体討議を行う。 	
試験・成績評価 グループワークの発表内容……70%、課題レポート……30% ※レポートの内容により学習成果物（学習やレポート作成に使用したノート、資料などをファイルしたもの）の提出を求められることがある。	
その他 アンケートによる授業評価を行う。	